

生き生き消防団

さいたま市消防局

「広報指導分団の活動」

さいたま市消防局

1 はじめに

さいたま市は、埼玉県の南東部に位置しており、日本の首都である東京の都心部から北に20～30km圏内にある県庁所在地です。

平成13年5月1日に旧浦和・大宮・与野の3市合併により誕生し、平成15年4月1日には全国で13番目の政令指定都市へと移行しました。さらに、平成17年4月1日の旧岩槻市との合併を経て、10行政区と人口122万人となり、日本で10番目に人口が多い都市となっています。面積は、217.49km²であり、政令指定都市としては川崎市、堺市について3番目に狭い市です。

本市は、古くは中山道の宿場町として発達してきた歴史を持ち、現在は東北・上越など新幹線5路線をはじめ、JR各線や私鉄線を結んでいる東日本の交通の要衝になっています。

さいたま市消防団の沿革としては、平成13年5月1日、浦和市・大宮市・与野市の合併により、浦和市・大宮市・与野市消防団をさいたま市浦和・大宮・与野消防団へ名称を改め、3消防団、51分団、定員1,108人体制になりました。

平成15年4月1日政令指定都市移行とともに組

織改正を行い、さいたま市浦和・大宮・与野消防団を統合、さいたま市消防団とし、1団51分団の体制をとりました。

平成16年10月1日に、女性消防団員を採用し女性消防分団を創設、機能別消防分団として活動する組織に位置付けをし、1団52分団の体制をとりました。

平成17年4月1日に、さいたま市・岩槻市との合併により岩槻市消防団をさいたま市消防団に編入して、1団、63分団、定員1,332人の体制となりました。

平成20年4月1日に女性消防分団を広報指導分団に組織改正を行い、女性消防団員だけでなく男性消防団員も、入団できる体制をとりました。

2 広報指導分団の創設

消防団の活性化と消防力の強化を図ること、また、あらゆる分野において男女が共同して参画するという基本理念のもと、消防団においても地域社会における女性の力を消防団組織の中で活かし、地域住民の安全確保を目的として、平成16年10月1日さいたま市消防団に女性消防分団と



▲応急手当指導訓練の様子



▲応急手当指導の様子（人体模型を使用して）

して、創設されたものです。この女性消防分団は、合併前の浦和市においてボランティアで予防広報等の活動を行っていた婦人消防隊を母体として、当初38名により火災予防広報、初期消火訓練や普通救命の指導を主な活動内容とする、機能別消防分団として創設されました。

前述のとおり平成20年4月1日には、女性消防分団を広報指導分団へと組織改正を行い、男性消防団員の受け入れについても可能とするなど、広く門戸を開き、消防団の充実化を図っています。

3 位置づけと活動

広報指導分団は、消防団本部の直轄に置かれ、平成17年1月26日、総務省消防庁が発令した「消防団員の活動環境の整備について」の中で謳われている機能別消防分団の理念に基づき、平常時においては、防火思想の普及・啓発、火災予防広報、初期消火訓練や普通救命の指導、災害時には災害情報の収集・伝達・広報、住民に対する避難・誘導、被災者への応急救護を主として

活動する機能別消防分団として位置づけられており、定員は43名としています。

現在は、女性消防団員43名が活動し、そのうち40名が応急手当指導員として認定を受け、さいたま市消防局主催の普通救命講習会の指導員として年間を通して約40回の活動を実施しています。消防局救急課の信頼も高く、受講参加者からは、親切丁寧な指導であると絶賛されております。

また、防災訓練等での火災予防広報、応急手当指導、消火器の取扱い指導等を住民に実施し、地域防災リーダーとしての役割を大いに発揮しています。

春季及び秋季火災予防運動時にはターミナル駅である大宮駅で駅前火災予防広報を行い、住宅用火災警報器普及啓発には取り付けサポート制度の登録を行い、普及率の向上に努めております。

消防機関関係以外の各イベント等にも出場依頼があり、火災予防啓発、応急手当の普及に活躍し、地域コミュニティの結びつきの強さを発揮し、そ



▲駅前広報（大宮駅）



▲駅前広報（浦和駅）

あるため入団待ちも発生していることから、現在の消防団組織等を見直す必要があります。

さいたま市消防団には、基本消防団員として女性消防団員2名が所属しております。今後さらに、女性が積極的に消防団活動に参画できる体制を整備することにより、地域に密着して生活し、地域コミュニティの結びつきが強い女性消防団員を確保し、ひいては地域の安心・安全のため更なる発展と地域防災力の向上に成果を上げられるよう、消防団の充実強化に向け取り組んでまいります。

のきめ細やかな指導・活動は市民から好評をいただいているところです。

4 今後の課題と取り組み

魅力ある広報指導分団の活動に賛同し、多くの方々が入団を希望しているところですが、定員が